

☆ 会 員 の 皆 様 の 寄 稿 よ り ☆

.. ピラアンのコミュニティーを訪ねて ..

神奈川県 森田奈美 (6/19)

(在 竹ノ木ト州イケボ町)

今回、山崎さんがピラアンのコミュニティーに行かれるというお知らせをくださったので、現在チボリ族の地に暮らしている私は「是非他のところにも行ってみたい!」と同行させていただくことにしました。旅好きな私としては、新しい土地を訪れることは本当に嬉しく、ましてや、こういう機会でもないに行くのが難しいピラアンのコミュニティーともなればなおさらです。

ポルールの小学校は1クラスが多角形1戸建ての教室で、多少オンボロながらもそのセンスのよさに感激!とても素敵な教室でした。夏休みだったので生徒たちにあえなかったのは残念ですがロバート神父(CMBの二人の神父のうち、宗教面担当神父。ノノイ神父はプロジェクト担当)がいろいろ案内して下さい、ここで製作しているニート製品(蔓で作ったかご等)も見せていただきました。

アトゥモロック (P'murok。私はトゥモロックと表記していますが、「ア」の音が入っているようです・・山崎)では1泊することができ、電気のないコミュニティー暮らしを体験しました。灯油ランプの明かりはとても温かく、心がゆったりする気がします。アトゥモロックへの道はとてもきびしく、ウェポンキャリアというトラックの荷台に乗ってた私たち(マーベル市のハイスクールやカレッジで勉強しているピラアンの子供たち15人程と一緒に・・ほとんどがHANDSの奨学生)はおしゃべりしながらも、でこぼこ道で車が跳ねる度に顔をしかめるのでした。山の途中からは2時間ほど歩いてやっと到着。美しい周囲の景色を楽しむ余裕があったら・・と残念。とにかく必死に歩くだけだったのです。木の少ない山道はとても暑く、水が本当においしく感じたのを思い出します。

この校舎は「掘って建て小屋」とでも呼べるような、竹や木でできた壁や屋根はところどころ腐ったり穴が開いてたりするボロボロさ。チボリ族のコミュニティーでもいくつか同じような校舎を見ますが、雨季には毎日雨の降るフィリピンでのこういう校舎で勉強する子供たちを想像すると、日本での整い過ぎた生活が信じられない世界のようにです。

夕方から村の人達と話し合いを持つことが出来、ピラアン語→イロンゴ語→英語→日本語と訳して村の状況を聞くことが出来ました。高校がないことや劣悪な道路事情等たくさんの問題を抱えつつも、「みんなで助け合って少しずつ進んでいこう」という雰囲気伝わってきて、また、「私たちの状況を知ってくれてありがとう」という発言には、お互いを知ることが友情(人間関係)を作っていく1歩なのだとしみじみ感じました。

夜、ノノイ神父と「援助」について話し合った時、彼の言う「ゆっくり、1歩1歩力をつけつつ進んでいく」という話に、「その通り!」と思いました。違う場所には違う文化があり、違う生活があり違う価値観がある・・日本人である私たちの価値観だけで、ものやお金を導入することは、時に文化を滅ぼし、昔ながらの生活を否定することにもなり得ます。本当に「自分たちの力で生きる力をつけていく」ことは、長い長い道のりなのです。

翌日はサムラングで半日過ごすことに。昨年できたというクリニックは風通しのよいゆったりとした造りで、この日も町からのお医者さんが無料診療をいらっしやいました。到着した私たちをピラアンダンスで迎えてくれ、手作りのキャッサバケーキなどをごちそうになりました。フィリピンにはボホール島に「チョコレートヒルズ」という有名な観光名所があって、山々がお椀型にいくつも連なって、木々が茶色に変化するとキスチョコみたいに見えることから「チョコレート」の名がついているのですが、ここサムラングの回りの山々もまるでチョコレートヒルズのように、とてもすばらしい眺めでした。

自然と共に素材に暮らしている人々の生活に触れていると、日本での暮らしはなんてものがあふれ、そのものの多さ故に何かを見失っているとしみじみ感じさせられます。日々生きることに直結した暮らしを体験することによって、私の中で価値観や考え方が少しずつ形を変え、以前より「生き抜く力」がついたように